

アラン・チボドーPh.D.
(エテルナ研究所)

血管新生とは健康な人でも通常に起こりうる現象ですが幾つかの病気の時にも起きてしまうのです。

およそ20種類もの病気が血管新生という現象によって、症状を複雑に悪化させてしまいます。例えば、ガン、関節炎、乾癬、黄斑変性症は血管新生の依存性疾患です。

血管新生の現象でおこる主なプロセスはまず血管新生促進シグナルが既存の血管に送られ、炎症細胞が血管外遊離し、内皮細胞がコラゲナーゼを活性し、血管壁が形成され、新生血管が形成されます。

軟骨は無血管組織つまり完全に血管から絶たれた物です。軟骨自身の力で血管からの進入を防ぐ血管新生の抑制因子が自然に備わっています。

軟骨を血管新生の抑制資源として扱い、その水溶エキスを研究開発してきました。

臨床試験で液体軟骨エキスを経口摂取により、内皮細胞を減少させコラゲナーゼを抑制するなどの血管新生の抑制活性が示され、その安全性も確認されています。

現在アメリカ国立ガン研究所 (NCI) によって当エテルナ研究所医薬品部の液体サメ軟骨エキスが選ばれ1998年12月よりDr.ルイ・ハーブスト (USA) と Dr.ウィリアム・K・エバンス (CANADA) を中心に60以上のUSA及びカナダの病院で、プラシーボを含めた約800人の癌患者を対象にPhase IIIの臨床試験が行われていることは今後の代替医療の推進において大きな意味のある事ではないでしょうか？